

令和3年度 第2回通常総会 議事録

1. 日 時 令和3年11月30日(火) 13時00分～15時45分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷及びWEB会議(ZOOMシステム)
3. 会員総数 114名
4. 出席会員 出席者 80名(会場出席 14名 WEB出席 66名)
出席者委任 25名 議長委任 9名
5. 出席した理事
会 長 井上 圭三(議長兼議事録作成者)
副会長 後藤 直正 楠 文代
常務理事 中村 明弘 浜岡 純治
加留部 善晴
理 事 亀井 美和子 元木 和幸
田中 芳夫 堅田 利明
佐川 賢一 越前 宏俊
岩城 正宏 津田 裕子
宮田 興子 篠塚 和正
6. 出席した監事 富田 基郎 市川 厚
7. 出席した参与 乾 賢一 本間 浩

8. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定により井上会長が議長に就任し、本日の出席会員が80名にて定款に定める定足数を満たしており、本総会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から楠 副会長、宮田理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(令和3年度第2回通常総会:令和3年6月1日開催)について、これを全会一致で承認した。

(2) 役員の任期満了に伴う役員選考手続き及び日程等について

井上会長から、現役員の任期が令和4年6月の第1回通常総会までとなり、役員選出のための選考手続きに関する内規の改訂及びそれに伴う役員選考日程及び手順等について説明があった。

次いで、小池事務局長から、資料4-①及び4-②に基づき具体的な改正等の説明があり、協議の結果、承認された。

- ① 資料4-①役員選出のための選考手続きに関する内規の改訂(案)について

第2条関係について、東西ブロック内の大学のうち、大学間統合による大学名の変更及び新規加入大学（学部）5大学を追加する。

第4条関係について、前回役員選挙（令和2年度実施）において「理事候補者となるのはすべての議決権を有する者」とする改正を行い、選挙を実施した結果、同一法人から2名（法人側、大学側）のが選出される結果となった。しかし、理事会の構成要件は、多くの大学の声を反映させる観点から、今回、再度見直しを行い「各法人は当該法人の理事候補者として議決権を有する者から1名の推薦を行う。」に改訂し、推薦された候補者に基づき作成された「理事候補者選出票」により理事を選出することとした。

なお、各法人から推薦があった理事候補者を登録した結果、東西いずれかのブロックにおいて、理事定数として必要な法人側4名、大学側4名をどちらかが下回った場合、下回った数相当を法人側若しくは大学側で理事定数8名の範囲内で調整することを申し合わせた。

② 資料4-②役員選考日程及び手順等について

- ・「議決権を有する者」の届出及び「理事候補者」の推薦依頼
（提出期限：令和4年3月22日）
- ・各ブロック理事候補者の選出依頼
（提出期限：令和4年4月19日）

(3) 令和4年度事業計画（案）について

小池事務局長から、資料5「令和4年度事業計画書（案）」に基づき説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(4) 令和4年度収支予算案）について

小池事務局長から、資料6「令和4年度収支予算書（案）」に基づき説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(5) 令和3年度教育賞受賞について

井上会長（教育賞受賞者選考委員会委員長）から、本年度の教育賞については、推薦母体となる大学及び本協会各種委員会委員長へ候補者の推薦依頼を行ったが、いずれも候補者の推薦がなかったため、本年度は該当者がなかったこととして取り扱う旨の報告があり、これを了承した。

なお、例年、教育賞のために、寄付をいただいている廣川書店に対し、該当者がいないことから、本年度は辞退する旨を連絡することも併せて報告があった。

(6) 学生入学定員の遵守について

井上会長から、資料7に基づき私立薬科大学（薬学部）の入学定員遵守について説明があり、「来年度入学者についても、入学定員と入学者数が等しくなるよう厳正な定員管理を徹底する。」ことを申し合わせるとして承認された。

また、これまで入学定員の1.1倍以上を受け入れた大学から、超過理由書の提出を求めていたが、近年特に入学志願者数の減少、大学を取り巻く環境の変化等により、入学予定者数を見込むことが極めて難しい状況にあり、恣意的なものではないこと等に鑑み、来年度から超過理由書の提出は求めないことが承認された。

(7) 広報誌「6年制薬学ガイド2023」の刊行について

井上会長（広報誌編集委員会委員長）から、本広報誌は薬学部を目指す高校生、高校の進路指導担当者等を対象に毎年刊行しているものであり、資料8に基づき、掲載内容（「生命（いのち）を支える薬剤師」と題し、高度医療（がん治療）及び災害医療（DMAT）に関わる薬剤師を取り上げること、大学で学ぶコアカリキュラム、研究内容の紹介、卒業後の進路等）について報告があった。

なお、現在コアカリ改訂の議論が進められており、令和6年度入学生から改訂コアカリが適用されることに伴い、「6年制薬ガイド2024」では、コアカリ改訂向きに内容を変更する予定であることも併せて報告があった。

(8) 薬学教育協議会について

中間参与（薬学教育協議会代表理事）から、資料9に基づき「第42回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会（9月6日開催）」について報告があった。

また、本協会に対し、薬学教育協議会で作成する「令和4年度薬学実務実習広報用ポスター」への後援名義の申請について説明があり、これを承認した。

(9) 薬学共用試験について

奥 薬学共用試験センター理事長から、資料10に基づき以下のとおり報告があった。

① 新型コロナウイルス感染症に伴う「特別試験」の実施について

昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患あるいは濃厚接触者と認定されたこと等により、本試験あるいは追・再試験を受験できなくなった学生を対象」に特別試験を実施する。また、COVID-19疑いのために受験できなかった学生も対象とするが、インフルエンザ等他の感染症、病気、怪我等の理由は対象としない。

- ・特別試験の実施及びその対象者の最終判断は大学が行うこととする。

・試験期間は、2022年3月14日（月）～3月27日（日）

② 2022年度薬学共用試験実施予定案について

試験実施時期

- ・本試験：2022年12月3日（土）～2023年1月27日（金）
- ・追・再試験：2023年2月14日（火）～3月11日（土）
- ・CBT体験受験：2022年7月20日（水）～9月9日（金）
（ただし、8月7日から22日は除く）

対象学年

- ・2023年度に長期実務実習を履修する学生とする。

受験料

- ・本試験受験料：24,000円
- ・再試験受験料：CBT, OSCE それぞれにつき12,000円
- ・CBT体験受験受験料：2,000円

③ 改訂コアカリへの対応委員会（仮称）の設置について

コアカリ改訂に伴い、CBTの出題問題、受験システム、問題管理システムの改修、OSCEの課題等を検討するための委員会を設置予定である。

（構成）

- ・薬学共用試験センター
奥直人理事長、伊藤智夫運営委員会委員長、増野匡彦 CBT 実施委員会委員長、野田幸裕 OSCE 実施委員会委員長、中村明弘試験統括委員会委員長、松野純男システム検討委員会委員長、石塚忠男 CBT 問題管理委員会委員長、山元 弘運営委員会委員
- ・本間 浩薬学教育協議会代表理事
- ・全国薬科大学長・薬学部長会議会長または副会長のうち1名

(10) その他

1) 令和4年度主要会議開催予定について

井上会長から、資料11に基づき令和4年度会議開催予定について報告があった。

2) 文部科学省委託費「6年制薬学教育制度調査検討委員会」の検討結果について

井上会長から、コアカリ改訂に向けたこれまでの検討状況について、以下のとおり報告があった。

- ・12月24日に開催される「第2回薬学系人材養成の在り方に関する検討会」において、改訂コアカリに関する発議が行われ、議論が開始される。

- ・これまで、コアカリ改訂の議論が、大学関係者に周知されていないことから、12月10日に開催される全国薬科大学長・薬学部長会議第2回総会において、文部科学省が状況報告を行ったうえで、これまで検討されてきた内容を説明し、情報の共有化を図ることとする。
- ・文部科学省は、今回のコアカリ改訂に向けて医学・歯学・薬学の内容の一部共通化を図ることに取り組んでいる。
- ・コアカリ改訂にあたって、医学・歯学・薬学共通の「キャッチフレーズ」が検討されている。医学・歯学は既に公表されているが、本キャッチフレーズの薬学固有の表現については、引き続き検討する。
- ・求められる基本的な資質・能力については、医・歯・薬で各項目の共通化を図るが、薬学独自の部分は別途検討する。

3) 第6回「日本薬学教育学会大会」の報告について

乾 参与（日本薬学教育学会理事長）から、資料12に基づき令和3年8月21日（土）、22日（日）の両日、名城大学薬学部においてWEB開催された「第6回日本薬学教育学会大会—今に挑戦する薬学教育～ニューノーマル時代の学び—」について報告があった。

4) 第7回「日本薬学教育学会大会」の後援名義申請について

乾 参与（日本薬学教育学会理事長）から、「第7回日本薬学教育学会大会（テーマ：薬学人のアイデンティティを探る～自己実現を志向する薬学教育～）」を令和4年8月20日（土）、21日（日）の両日、北里大学薬学部で開催するにあたり、本協会に対し後援名義の申請があり、これを承認した。

9. 薬学教育の諸課題について

(1) 文部科学省高等教育局医学教育課 大久保薬学教育専門官から資料に基づき、以下について説明があった。

○ 薬学系人材養成の在り方に関する検討会について

座長：永井良三自治医科大学長

座長代理：井上圭三帝京大学副学長

今回の検討項目

- ・薬学教育の質の保証に向けた施策の検討
- ・薬学教育モデル・コアカリキュラムの策定

○ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について

- ・12月24日に開催される「第2回薬学系人材養成の在り方に関する検討会」において、改訂コアカリに関する発議が行われ、議論が開始さ

れる。

・改訂スケジュール

2019年度（令和元年度）～2021年度（令和3年度）

調査研究委託（委託先：日本私立薬科大学協会）

2021年度（令和3年度） コアカリ改訂検討開始（文部科学省）

2022年度（令和4年度） コアカリ改訂完了（薬学・医学・歯学同時）（文部科学省）

2024年度（令和6年度） 学生受け入れ

- ・チーム医療の推進や、医療分野の進歩、社会情勢の変化を踏まえ、医療人として共有すべき価値観を共通して盛り込む等、薬学部、医学部及び歯学部で大項目や基本的な資質等の内容について整合性をとったモデル・コアカリキュラムを同時に改訂予定。

- 令和3年度薬学教育指導者のためワークショップについて（報告）
テーマ：「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」
の成果と課題
- 令和4年度概算要求について

(2) 厚生労働省医薬・生活衛生局 太田薬事企画官から資料に基づき、以下について説明があった。

- 第107回薬剤師国家試験の施行について
「卒業確定者の報告」の報告期限を、これまでの「試験実施前」から「試験実施後」に変更する。これに伴い、出願者は卒業確定者でなくとも受験は可能となる。（ただし、卒業できていないことから試験は採点せず不合格となり、公表資料の受験者数にも含めない。）
なお、このような学生に対しては、卒業できるのではないかという誤解を与えぬよう、試験実施前には卒業できないことを伝えるとともに、希望者は、受験すること自体は可能（採点はしない）であることを伝える。
- 令和2年度医薬品販売制度実態把握調査について
- 薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめについて
 - ・薬剤師の養成等について（入学定員、薬剤師確保）
 - ・薬学教育について（カリキュラム、教員、卒業までの対応）
 - ・国家試験について
 - ・薬剤師の資質向上について（卒後研修、生涯研修・専門性）
- 新型コロナウイルス感染症における薬剤師の取組みについて
- オンライン化の動きについて
- 最近の薬局・薬剤師に関するトピックスについて
- 令和4年度概算要求について

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、15時45分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事（指名された議事録署名人）がこれに署名捺印する。

令和3年12月17日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長兼議事録作成者 井 上 圭 三
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 楠 文 代
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 宮 田 興 子
(押印済)